国内支社局網
中区上前津1－4－12 TEL 052(331)3371
区大須賀町14－12 TEL 082(263)5523
区北七条西4－8－3 TEL 011(756)1321
多区博多駅前3－23－22 TEL 092(472)3887
区大町1－1－8 TEL 022(223)9032
央区万代4－2－23 TEL 025(244)7600

日刊
産業新聞
Japan Metal Bulletin

2020年（令和2年）
11月30日（月）
第20087号
Since1936

発行所 産業新聞社
東京本社 東京都中央区新川1－16－14
編集局（非鉄）TEL 03(5566) FAX 03(5566)
総務販売局（購読・配達）TEL 03(5566) FAX 03(5566)
大阪本社 大阪市西区阿波座1－3－15 TEL06(7733)7001 FAX06(7733
アジア総局 上海市普山園路65号 東方国際大廈C座16
上海支局 TEL 86-21-6278-7750 FAX86-21-627

アルミ圧延品出荷

板類

10月、車用7カ月ぶり増

日本アルミニウム協会が27日に発表した2020年10月のアルミ圧延品の生産・出荷動向（板・押出合計）は板類の生産・出荷が15カ月ぶりにプラスに転じた。国内の自動車生産台数の回復により、自動車向け出荷が7カ月ぶりの前年同月比増となった。輸出向けは前年の低水準もあり、21カ月ぶりの大幅増。箔出荷は採用車種増加を受けて車載用リチウムイオン電池（LiB）向けが好調だった。

板・押出合計の出荷は1・5%減の16万1761㌧と15カ月連続のマイナスだったが、7カ月ぶりに16万㌧台を回復した。生産は0・9%増の16万2927㌧と15カ月ぶりに前年を上回ったほか、12カ月ぶりに16万㌧台となった。

板出荷も1・8%増の9万6526㌧と15カ月ぶりにプラスに転じた。自動車と輸出のほか、箔地、電子通信装置が増加した。板生産も5・6%増の9万8892㌧と15カ月ぶりに前年同月を上回った。

押出出荷は5・9%減の6万5235㌧。建設は住宅着工数の減少を受けて低調だが、自動車向けで回復がみられた。押出生産は5・7%減の6万4035㌧。生産・出荷ともに13カ月連続のマイナスだったが、7カ月ぶりに6万㌧台を回復した。

自動車向けは板出荷が6%増の1万7416㌧で7カ月ぶりのプラス。押出出荷も2・2%増の1万2295㌧で12カ月ぶりのプラスとなった。国内自動車生産台数の回復により、いずれも前年を上回った。

板出荷のうち、缶材

アルミ圧

	2 1
▽生産	
板類	
押出類	
合計	1
箔	
▽出荷	
板類	
押出類	
合計	1
箔	
▽在庫	
板類	
押出類	
合計	
箔	

向けも35・9%増

241㌧とそれぞれ回復した。

押出出荷は建設向けが6%減の4万5411㌧と前年割れが続くが、11カ月ぶりに4万㌧台となった。サッシ・ドア向けは4・5%減の2万6431㌧、内外装・その他は8・6%減の1万4110㌧と減少した。

箔出荷は2・1%減

退により1・5%

2336㌧だった。

電気機械器具向けでは、LiB向けが車載用で好調に推移し、52・1%増の2753㌧の大幅増。個別の項目に加わった19年1月以降、最も出荷量が多くなった。コンデンサー向けは18・1%減の1672㌧に減った。

花岡金属商会

抗菌性・高級感を提案

ピンクゴールドめっき製品

特殊金属スクラップなどを手掛ける花岡金属商会（本社＝神奈川県横須賀市、花岡俊社長）は、9月からホテルや飲食店向けにピンクゴールドめっき加工製品の販売を開始した。銅と金を合わせたピンクゴールドめっきを使用済みの洋食器やキャッシュトレーに施しリメイク。抗菌性と高級感を高め、新型コロナウイルス対策に追われるホテルなどに提案する。すでに複数のホテルから引き合いがあるという。ECサイトの立ち上げも予定しており、販売チャネルの多角化を進める。

ピンクゴールドめっきは金と銅の合金めっき。銅が抗菌作用を持つことは知られているが、食器などに用いるには酸化、変色しやすいことがネックだ。そのため酸化を抑制する金と合わせピンクゴールドめっきとし、見た目の華やかさと抗菌性を併せ持つことに成功。抗菌性は分析機関で証明されており、安全な製品の提供が強みだ。

抗菌性を生かしたマスクトレー

華やかさと抗菌性を併せ持つ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、食事をバイキングから定食に切り替えたホテルが多い。だがバイキングのニーズは強く、抗菌作用のある食器が求められていた。そこでトングを中心にフォークやピッチャーなどの洋食器類のほか、外したマスクを殺菌するトレーなども提案する。アフターコロナ対策や大阪・関西万博を控える関西地区のホテルを中心に検討が進んでいるという。

元々はホテルで発生した使用済み食器を同社が買い取り、金属リサイクルを行っていた。今回、新たな試みとして長年使用した食器を再研磨後にピンクゴールドめっき加工し、リメイク品として販売。素材を生かすことで新品を購入するよりコストを軽減し、抗菌性を高めた。提案のためホテルにサンプルを提示したところ、「新品と思われた」（花岡社長）ほどで、完成度に手応えを感じている。

国内で使用される食器は金属加工で知られる新潟県燕市に拠点を構えるメーカーによるものが中心。取引先のホテル用カトラリー専門めっき業者が検査を行い、抗菌・抗ウイルス性が証明された。コロナ禍に苦戦するホテル業界を支援したいとの思いが一致し、協業を決めたという。

花岡社長は「リサイクルからリメイクとすることでSDGs（持続可能な開発目標）への取り組みになる。めっきを通してコロナに負けない事業を展開したい」と話す。

金から一貫生産

立60周年

合金・用途開発なお推進

アルミ・合金線や棒のトップメーカー・アルミネ（本社＝大阪市西区）が今月、設立60周年を迎えた。ハンダ製造からスタートし、在日米陸軍調達本部の納入業者に指定され収益を上げ、その資金を元にアルミ線・異形線の生産を開始した。連続鋳造圧延方式で地金から一貫生産し、2000系や7000系の高強度アルミ合金の製造も可能にし、世界に誇る素材メーカーに成長した。このほど竹内昇社長に、周年の感想や今後の展開などを聞いた。

――まずは周年を迎えられた感想を。

「長年お付き合いして頂いているお客さまに深く感謝申し上げるとともに今後、お客さまが困った時は何としてでも協力したいという気持ちでいっぱいだ。今春亡くなっ

・導入から合金の研究開発まで自ら陣頭指揮を執り社員を引っ張ってきたが、会長が去った今、社員一人一人が自ら考え、『会社を盛り立てていこう』という意識に変わっている。これまでの企業カラーとは大きく変わってくると期待している」

――次の70周年、80周年に向けて抱負を。

「希望より不安の方が大きいというのが率直な感想。中国・ASEANの台頭を含め、素材産業が日本で生き残っていけるのか、日本で造る意味や意義を維持し続けられるか、という心配は尽きない。アルミの精錬業が日本から消えたように、長期的にはわれわれ圧延メーカーにも波及する可能性はある。とはいえ、アルミは軽くて強く、リサイクルできるという特性から、これからも必要とされ続けると確信している。当社としては、アルミ合金の開発や用途開拓などを推し進めるとともに、アルミ以外はM&Aなどを活用して他分野に事業を拡大する。業種を広げることで多様な人

えると余力がないのが現状。そもそもベトナムに進出したきっかけは安価な労働力を求めてではなく、3K5Kといわれる日本の製造業にこれから若い人材が集まり、技術を継承できるのか、という不安があったからだ。20年近く前からベトナム人を雇用し、勤勉で真面目に働く国民性に信頼感

よる受注減などで売上高は23・1%減の39億4100万円、営業利益は50・8%減の2億6500万円だった。国内需要は低調だったが、欧米向けでアルミ合金のワイヤロッドの輸出が堅調に推移し、部門別売り上げ数量は、アルミ・合金線が0・6%増、アルミ・合金棒が15・7%減、アルミ板・条は17・1%減だった。

上期の業績を踏まえ通期の業績予想を下方修正しており、売上高は95億円（修正前10

当社の受注も上向き始め、足元の稼働率は前年同月の105%と非常に忙しい。特に短納期の依頼が多く、対応に追われている。上期に不振だった付加価値の高い製品の引き合いも戻っており、年内はこの水準が続きそう。ただ、9月からの受注拡大は景気要因というよりユーザーの在庫調整が一巡したことによるものとみられ、来年1－3月の見通しについても楽観視していない。

設立60周年

東大生研

材料分野オンライン

東京大学生産技術研究所非鉄金属資源循環工学寄付研究部門（JX金属寄付ユニット）とSHIBUYA QWS Innovat